

【人間科学専攻】

<教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）>

人間科学専攻ではディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 2年次に「人間科学基礎（科学的方法、研究パラダイム、自己と他者）」と「人間科学研究法基礎（実験、質的調査、量的調査）」の二つの必修科目を置く。これらは人間を多角的にとらえるための認識論と方法論の基礎となる科目であり、本専攻のカリキュラムの全体像を明らかにすると同時に、これ以降の専門教育科目の位置づけを与える。
2. 2年次にはこのほかに4つの基幹科目(卒業時までには修得が必要な必修科目、「人間科学諸領域Ⅰ（心、自己論、アイデンティティ）」、「諸領域Ⅱ（社会心理学、対人行動、対人相互作用）」、「諸領域Ⅲ（社会学、モデル、方法論）」、「諸領域Ⅳ（文化人類学、多文化共生、フィールドワーク）」)の履修を推奨している。これらの科目を通じて、心理学・社会心理学・社会学・文化人類学の理論と方法の基礎を学ぶ。
3. 2年次以降に履修可能な専門教育科目として「人間科学特殊」（「精神医学」「依頼と説得の心理学」「進化心理学」「現代家族の社会学」「合理的選択の社会学」「医療人類学」「伝統文化と開発」など約25科目）を置く。これらの科目を通じて専門的な知識を修得すると同時に、自らの関心を深化させることができる。なお、専門科目にはデータの収集と分析を演習形式で学ぶ「人間科学研究法（計量と解析、測定と記述）」も設置されており、計量的なデータ分析の方法を実践的に学ぶことができる。また英文文献の読み方を演習形式で実践的に学ぶ「人間科学演習」も用意されている。
4. 3年次からは「人間科学研究会」（ゼミ）を履修することができる。学生は自分の関心にあわせてゼミを選択し、より専門的な学習を演習形式で続けながら、自分たちで問題を設定・分析し、結果を発表・議論するスキルを身に着けることができる。なお、履修の自由度を高めるためにゼミを選択しないことも可能としている。
5. 4年次には学習成果を総動員し、学生が自らの関心に基づいて研究論文の作成を行う。研究会に所属する学生は、教員の指導の下に「卒業論文」を作成する。3年次に研究会に属さなかった学生も、「卒業研究」という形で教員の指導の下に研究論文を作成することが求められる。